

世界の高校生が国際連合本部がある米国ニューヨークに集まり、実際の国連を模った国際問題を議論する「高校生模擬国連プログラム」が注目を集めている。国内大会を主催する公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）の張富士夫会長（トヨタ自動車会長）に寄稿してもらった。

模擬国連で国際問題議論



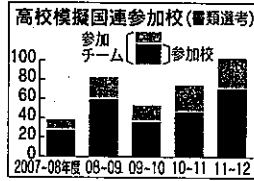
張 富士夫
ユネスコ・アジア文化センター会長
（トヨタ自動車会長）

性と柔軟性、積極性と意欲を併せ持つ彼らを見てみると、内向きだと言われる日本の若者も捨てたものではない。

模擬国連とは、参加者が「国連加盟国の大使」となり、「国連会議のシミュレーション」を通じて、現代世界の諸課題を討議する教育プログラム。日本では大学生の模擬国連が30年以上の歴史を持つ。2007年からは、高校生模擬国連も始まり、毎年11月に全日本大会が東京で開かれ、優秀賞を獲得した5チームが翌年5月に米国で開催される国際大会に日本代表団として派遣される。

国内のプログラムは、7月に「設立協議」と「議論、交渉を通じて一定の題が発表されていく」という結論にたどり着く。国際

来れ高校生大使



今年からACCUは、「高校生模擬国連プログラム」の共催団体に加わり、翌年5月に米国で開催される国際大会に日本代表団として派遣される。国内のプログラムは、7月に「設立協議」と「議論、交渉を通じて一定の題が発表されていく」という結論にたどり着く。国際

済・財政委員会」における準備を進める。全日本大会は2日間、国連の会議の模倣と称される法的文書の採択と意見交換が行われる。模擬国連も同様で、形式が定まらぬ英語の文書に、意見を盛り込めるかが大いに関心される。昨秋は初日にインターネットで情報を交換し、関係・共有・向上のための問題で、いかに脱力力の新機軸の設立」をはじめ、2カ月をかけて意見を交わされた。2日間の討議と交渉にまとめ提出する。この一次審査を通過した50チーム100人が全日本大会に進出する。各チームには、それぞれ「担当大使」が通知され、大会までの約1カ月前、高校生たちは担当国を研究し、その国の大使になりきり、優秀賞を獲得した5チーム10人が日本代表として、今年5月、米国ニューヨークの国連本部で開かれた国際大会に参加した。国際大会では複数の設定会議があり、それぞれに議題が異なる。日本代表は「シンパエ大使」として、24カ国約2000人の高校生と共に大会に臨んだ。1チームが1つの会議を担当し、それぞれの会議で「シンパエ大使」として別々の議論を討議する。

使用言語は英語 ■ チームの「総合力」競う

模擬国連は英語で議論するので、誰かが参加できないわけではない。帰国子女向けだという批判もある。だが、これは単なる英語力のコンテストではない。意欲ある高校生が多様な力を発揮し切磋琢磨し取り組みに目を向ける機会である。現に、帰国子女以外の参加も増えている。世界の同世代と競い合うことの面白さを高め、世界で活躍したいという高校生にとって、国

大会で5つの設定会議に臨んで優秀賞を獲得し見事な存在を示した。参加した高校生の声を紹介しよう。「会議の前にも積極的に他の大使（高校生）に話しかけ、会議で影響力を発揮できた」「英語が流ちょうでなくても発言機会をうまく使い味方を増やす他国大使を見て、自分なりに感じるのは英語力ではないと感じた」「自分たちを無視するグループを避けず、もっと聞いてもらえばよかった……」。

模擬国連で光る高校生には、単に「知識がある」とか「スピーチがうまい」というだけでなく、周りを引き込む「ユニークな視点」や、他者の意見を反映させた決議案を「臨機応変」に提案できる能力がある。高い意欲と、語学力やプレゼンテーション能力、リサーチ力、創造力、理解力などの多面的な能力もある。だが、これらはいずれも日本の学校教育が苦手な場が、まだまだ少ない上に、受験対策優先の学校現場では、若者がそとから世界に目を向けても、意欲が摘み取られてしまっている。

ACCUは、より多くの志ある高校生に大会に参加してほしいと考えている。そのために資金面は重要な課題である。大会運営費や地方参加生徒への交通費の一部補助、国際大会への派遣費用など、プログラムの実施費用は企業寄付で支えられており、今年もすでに20社近い企業・団体の支援を頂いたが、より多くの企業の幅広い支援をお願したい。

若者の意欲 積極支援を

グローバル時代にもかかわらず、最近の若者は内向きだという批判が絶えない。だが国際的な音楽コンクールで上位に入賞したり、国際数学オリムピックで活躍したりする高校生など、世界の心を魅了する若者は少なくない。

ACCUの代表は、60・44歳。張